

44 東京府知事芳川顕正他三十九名の地方長官より学術演説

者を検束するに付建言

〔明治十六年十二月〕

学術演説者ヲ検束スルヲ請フ建言

外交初テ開テ世態漸ク変リ

皇徳渙発シテ奎運勃興ス人博采ヲ尚ヒ俗陋習ヲ破ル朝野盛ニ学
 費ヲ興シ上下専ラ欧米之学ヲ講ス制度典章之儀朝廷之ヲ采リ權
 利自由之説民人之ヲ知ル集会結社之事亦行シテ国家之政法ヲ私
 議スル者稍ク出ツ有司寛假シ敢テ之ヲ制セス將ニ衆思ヲ集メ群
 力ヲ併セ大ニ大政ヲ翼賛セントス既ニシテ而シテ吾民之敏捷ナ
 ル流レテ輕躁ニ入り実務ニ達セスシテ空理ニ驚セ邪説暴行妄リ
 ニ政法ヲ是非シ民心ヲ擾乱ス少年子弟其得失ヲ知ラス和シテ而
 シテ之ヲ唱ヘ天下靡然トシテ詭激ヲ尚ヒ遂ニ民彝ヲ破リ治安ヲ
 害スルニ至ル明治十三年初テ集会条例ヲ設ケ十五年又之ヲ訂正

(注記1)

シ以テ詭激ヲ防制シ治安ヲ保持ス然レ任其法未タ以テ完備ナリ
 ト為スニ足ラス世間巧ニ法網ヲ逃レ陰ニ詭激ヲ行フ者アリ夫ノ
 学術ノ集会是ナリ今日学術ヲ以テ集会シ演説討論スル者ヲ觀ル
 ニ集会条例ニ犯触シテ政治ノ演説ヲ禁止セラレタル者カ若クハ
 政談政社ノ臨会加入ヲ制止セラレタル之徒ニシテ多クハ人ニ師
 タル之学識ヲ有スルニ非ス又説ク所根柢アルニ非ス外国之書ヲ
 繙キ纒ニ其門戸ヲ窺ヒ妄リニ社会平權人民同等ヲ講シ徒ニ仏国
 之顛覆英國之立憲米国之獨立魯国之压制ヲ談ス其說雜駁杜撰骨

ナク肉ナク徒皮相ヲ粉飾スル耳其天下後世ヲ誤ラサル者殆ト希
 ナリ人民保安之任ニ在ル者一日モ其匡救ヲ忽ニス可ラサル也議
 者曰現行之集会条例ハ明ニ其規律ヲ載セタリ其第十六条ニ曰学
 術会其他何等之名義ヲ以テスルニ拘ハラズ多衆集会スル者警察
 官ニ於テ治安ヲ保持スルニ要用ナリト認ルルハ之ニ監臨スル
 ヲ得若シ監臨ヲ肯セサルハ第十二条ニ依テ処分ス学術会ニ
 政治ニ関スル事項ヲ講談論議スルアルハ第十條ニ依テ処分
 ス第十七条ニ曰前条之場合ニ於テ治安ヲ妨害スト認ルルハ第六
 条ニ依テ処分スト学術ノ集会モ治安ヲ妨害スルハ行政談ト同ク
 処分スルヲ得豈ニ規律完全ナラスト謂フ可ケンヤト議者之説
 固ニ然リ然レ任其徒ニ其名ヲ見テ其実ヲ察セサルノ言ナリ夫ノ学
 術演説之弊ハ集会条例頒布以後ニ生シ明治十四年稍ク盛ニ其十
 五年ニ至リ益蔓延シ遂ニ條例ヲ増補セラレ学術之演説モ治安ニ
 妨害アリト認ルルハ之ヲ中止シ之ヲ解散シ又禁錮罰金ヲ科スル
 ニ至ル然レ任其弊転盛ニ未タ其廃止スル所ヲ知ラス是其規律不
 備ナルニ非スシテ何ソ政談学説ヲ混同シ規律ヲ設ルニ坐スルノ
 ミ夫レ政治学術モ其演説討論ニ就テ之ヲ觀ルルハ相類スルカ如
 シト雖モ其実大ニ異リ其之ヲ処スルノ道又決メ之ヲ同フス可ラ
 ス何トナレハ政治ハ外ナリ学術ハ内也其治安ニ於ル政治ハ直接
 ナリ学術ハ間接ナリ之ヲ疾病ニ譬フ皮膚ニ在ル者ハ劇甚ナラサ
 レハ性命ヲ害スルニ至ラス而シテ輕キモ人能ク之ヲ療スルヲ知
 ル腹心ニ在ル者ニ至テハ人得テ之ヲ知ラス漸ク膏肓ニ入り遂ニ
 救藥ス可ラス演説ノ人心ニ於ル政談ハ其説ク所奇僻ナラサレハ
 之ヲ聳動シ難ク其聳動スル者ニ至テハ治安ニ妨害アルト否サル

ト一見以テ之ヲ判ツヘシ且夫レ政ヲ行フハ朝廷之任假令処士横
議スルヲアルモ朝廷敢テ采ルヲ要セス政治固リ一人ノ為ニ之ヲ
為スニ非ス其利害博ク国家ニ及フ民人タル者唯政法ヲ遵守スレ
ハ可ナリ本ト政談之務アルニ非ス若シ政談アリテ人或ハ其本然
之務ヲ妨ルノ虞アルハ当ニ其論議之是非ヲ問ハス之ヲ聴ク
ヲ制止スヘシ學術ハ則チ然ラス其科広博其旨深遠其高尚ナル者
ニ就テ論スルハ則チ天文地理其卑近ナル者ヲ言フハ則チ農
事工作凡ソ人ノ世ニ立チ生ヲ営ムノ道皆學術ニ非サルハナシ而
ノ其歴史經濟等ヲ説クニ至テハ其言辞ヲ巧妙ニシ陽ニハ平実ヲ
裝飾スト雖モ陰ニハ詭激ヲ教唆シテ人民之心志ヲ擾乱スル者ア
リ又謬見僻説ヲ揚々自得シテ人民之視聽ヲ迷惑スル者アリ又陰
事ヲ訶癸シ罵詈譏諷シテ人民ノ徳義ヲ壞敗スル者アリ凡ソ學術
之要ハ善行ヲ励シ技芸ヲ長シ安寧ヲ保チ福祉ヲ護ルニ在リ教員
學識之足ラサル言行之脩ラサル課書主義之良カラサル文字之佳
ナラサル學問其利ナキノミナラス却テ姦詐ヲ養ヒ禍害ヲ醸ス古
來邪説淫辭之世ヲ惑シ民ヲ誣ルヤ其害独リ當時ニ止マラス延テ
後世ニ及ヒ洪水猛獸ヨリ甚シキ者アリ其迹遠ク當時ニ求メスシ
テ現ニ今世ニ在リ維新以降技芸智能之學初テ興テ礼義廉恥之教
漸ク衰レ權利自由之説新ニ行ハレテ忠信篤敬之風將ニ泯ントス
今日識者カ慨歎スル所ノ風俗頹敗モ原ト政談ニ由ルニ非スシテ
主トシテ空理之行ハル、ニ在リ空理之行ハル、教育其道ヲ失フ
ニ在リ豈ニ戒メサル可シヤ教育之道従前法令ナキニ非スト雖モ
其法令之制スル所ハ學齡兒童ニ止リ中年以上ノ教育ハ拳テ民人
ニ委ス故ヲ以テ自國普通ノ文末夕通セサルニ既ニ外國高尚ノ理

ヲ講シ存養素ナク放縱自ラ任ス然リ而シテ纔ニ外國之理論ヲ解ス
レハ傲然教師トナリ肆ニ空理ヲ唱ヘ奇僻ヲ尚フ後死之者此風潮
ニ漂漾セラレ之ヲ能ク防制スルヲナキハ遂ニ悖戾壞乱ノ民タ
ルニ外ナラス教育ノ國家ニ於ル其關係固ヨリ大ナリ小官等之ヲ
憂フルヲ久シ朝廷達觀教育令ヲ改正シ嚴ニ學事ヲ督ス是ニ於テ
各般ノ學校擅ニ開クヲ許サス荒鹵暴激若クハ刑余之人教師タ
ルヲ得ス邪僻奇淫之文課書タルヲ得ス少年學校ハ特ニ徳教
ヲ重セシム其一タヒ害ナキヲ視テ開設ヲ許可シタル學校モ常ニ
教師生徒ヲ督勵シ教旨課書ヲ視察シ苟モ教旨之邪僻ニ入り言行
之放肆ニ流ル者ハ嚴ニ之ヲ警戒シ之ヲ擯斥シ其ヲ理ニ驚セ実
ヲ失ハサラシム然リ而シテ學術之演説討論ハ演者ノ學識性行ヲ問
ハス一ニ其為ス所ニ任放シ唯警察官ヲシテ時ニ臨ミ事ニ応シテ
之ヲ制セシム凡ソ學術ニ百科アリ論宗ニ万派アリ其人ヲ瞞キ私
ヲ営ム之論ニ至ツテハ陰險詭譎正邪弁シ難シ警察官又百般ノ學
科ニ通スル者ニ非ス其之ヲ制スル豈ニ又難カラスヤ噫前門虎ヲ
防ケハ後門狼ヲ進ム今學校之虎漸ク前門ヲ退キ演説ノ狼又後門
ニ進ム今之ヲ驅除スル之策如何曰學術之演説ヲ為スヲ得ル者
ハ中外大學校ニ於テ專門之學科ヲ卒業シタル者ニシテ其學科ニ
限り若クハ碩學老儒ニシテ修身ノ教ニ限り學校教師ト同ク地方
官其性質言行ヲ檢按シ文部卿之ヲ許否スル者ト定メ其既ニ許可
ヲ得タル者モ常ニ其言行ヲ視察シ苟モ邪僻放肆ニ入ル者ハ之ヲ
懲戒シ之ヲ禁止スルハ庶幾クハ勻面乳臭之書生漫然演壇ニ上
リ口ヲ學術演説ニ藉テ放言僻説ヲ逞フスル能ハス所謂後門之狼
又當サニ之ヲ退クベキナリ夫レ學術之演説ハ即チ學術ノ講議ナ

リ其學術ニ通曉シ其識見ヲ有シ苟モ人ニ師タル之學識ヲ有スル者ニ非サレハ之ヲ為ス之理ナク學術演說ヲ為ス者ノ學校教師ニ於ル固ヨリ其義ヲ同一ニス演說者學識之足ラサル言行之脩ラサル其世ヲ惑シ民ヲ誣ル教師ト又何ソ扱ハシ學校教師ハ既ニ檢束セリ學術演說者又當ニ之ヲ檢束セスンハ非サル也謹テ具ス

明治十六年十二月一日

岩手県令 島惟精 印

根室県令 湯池定基

札幌県令 調所廣丈

宮崎県令 田邊輝実

大分県令 西村亮吉

福岡県令 岸良俊介

愛媛県令 関新平

徳島県令 酒井明

和歌山県令 松本鼎

山口県令 原保太郎

広島県令 千田貞暁

岡山県令 高寄五六

鳥取県令 山田信道

島根県令 藤川為親

福井県令 石黒務

石川県令 岩村高俊

山形県令 折田平内

秋田県令 赤川巖助

〔下札〕

青森県令 郷田兼徳
宮城県令 松平正直
福島県令 三島通庸
長野県令 大野誠
岐阜県令 小崎利準
滋賀県令 籠手田安定
山梨県令 藤邨紫朗
静岡県令 大迫貞清
愛知県令 國貞廉平
三重県令 岩村定高
茨城県令 人見寧
千葉県令 船越衛
群馬県令 楫取素彦
埼玉県令 吉田清英
函館県令 時任為基
新潟県令 永山盛輝
長崎県令 石田英吉
兵庫県令 森岡昌純
神奈川県令 沖守固
大阪府知事 建野郷三
京都府知事 北垣國道
東京府知事 芳川顕正

太政大臣 三條實美殿

(注記1)

「二」(簿冊内件名番号)

(下札)

〔印〕本書連名ノ同僚共於テハ何レモ同意ニ付一同捺印ノ上進呈可仕
ノ処多人數周廻徒ラニ時日ヲ迂延候ニ付惟精一名捺印シ余ハ關印
ノ儘進呈仕候

〔自明治十七年至同十八年 上〕
〔書建言録〕三 2A, 1, ⑤56